

2012 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド

1 事業実施の方針

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことが出来る機会創造に寄与することを目的とする。特に、途上国の人々が自分達のかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業概要	事業内容	実施日	実施場所
大会等の運営協力と 対地雷被害者への 義手・義足支援他	・アンコールワット国際ハーフマソン 特別運営協力	アンコール遺跡群を巡る AIMS(国際ロードレース協会)公認のチャリティーマソンで 17 回大会を迎えた。前々日にはイベントとして遺跡で現地の子 ども達とのウォーキング & レクリエーション交流を開催。 71 の国と地域から 6,426 名が参加(ランナー: 6241、ウォーカー: 185)。日本か ら専門指導者や一般・学生ボランティアも多数参加。	4 月 └ 3 月	カンボジア (シェムリアップ)
	・対地雷被害者への義手・ 義足などの支援	アンコールワット国際マソン大会から、6 団体を通じて、義手・義足支援、障が い者、子ども達、貧困者支援等の活動に使用 (本年 US\$19,400 第 1 回 からの支援総額 US\$294,417)	11 月 └ 3 月	カンボジア
	・エイズ予防教育	現地 NGO と協力してエイズ予防の広報活動を 12 月 2 日に実施	12/1-2	シェムリアップ
被災地、紛争地にお ける生活者の自立支 援事業	・日本語教育	・公立小学校内で HG むつみ日本語教室を開校(4 クラス、70 名) ・日本の学校と交流(異文化理解・持続可能な開発のための教育)	4 月 └ 3 月	カンボジア (シェムリアップ)
	・ハート・ベアレンツ(里親) ・NCCC建設事業	・養護施設運営事業(1 名退所、3 月末現在 14 名) ・ New Child Care Center 門と塀完成、納屋の改修、スタッフ宿舍改装		宮城県 福島県
	・3.11 子ども animo プロジェクト	・復興支援として、学校と相談して、必要な支援を実施 ①野蒜小学校に校外学習(自然教室、全校遠足)と卒業アルバム贈呈 ②渡波小学校に、鼓笛隊制服支援他 ・現地学校訪問(体育授業・鼓笛隊交代式出席、他)		
障がい者スポーツの振 興、障がい者と健常者 のスポーツ交流の促進	・カンボジア障がい者・障がい者 ランナーの支援	・カンボジア障がい者陸上連盟の運営支援 ・アンコールワット国際ハーフマソンに障がい者ランナーを招聘(80 名) ・障がい者の自立支援	4 月 └ 3 月	日本 カンボジア
ランナーズイベントの促進 国内外におけるランニ ング大会、スポーツイベ ントの主催・後援・協力	・スポーツイベント事業・チャリティー マソン・チャリティーデナー・バザー・ 音楽会	・国内のチャリティーマソン・スポーツイベントなどを実施 ・ウエスタン・チャリティーデナー他を実施 主催・後援・協力 実績: 13 回	4 月 └ 3 月	日本
その他、この法人の 目的を達成するため に必要な事業	・小学校体育科教育振興事業 (JOCV 協力事業)	・カンボジア小学校体育科教育普及のため、教育・青年・スポーツ省 (MoEYS) の人材を育成した。具体的には青年海外協力隊員による MoEYS の担当官のためのワークショップを実施し、自ら授業を組み立て る中で、体育授業の進め方や教授法等を教えた。 ・新事業の為、前事業実施対象地 5 州をモタリングし、体育授業の普及 状況を確認と来年度からの活動準備。指導書印刷準備。	4 月 └ 3 月	カンボジア
	・研修会・講演会 ・招聘事業 (岡山県国際課助成他)	・人道援助などシンポジウムやパネル展、講演会などを開催・協力 講師: 有森代表、HG 顧問、専門派遣者、スタッフ、事務局等 29 回 ・インターン受入: 3 名(大学生の現地研修・本部研修) ・招聘事業: L to L プログラムにより、HG のカンボジア人スタッフを 7-10 月 の 4 ヶ月日本に招聘し、体育科教育について岡山県教育委員会等 で学んだ。	4 月 └ 3 月	日本 カンボジア
	・スティーティア協力 国際協力の現場視察とボラ ティア体験を通じた国際理解	・実際に現地を見学し、交流することにより貧困・環境・平和・開発など の問題について理解を深める。(12 月企画 ツアー、他ツアー協力) ・ウォーキング大会で日本からのツアー参加者との交流 ・学生・団体のスティーティア協力(6 団体受入)	4 月 └ 3 月	カンボジア
	・学校教育支援(サビステニング) として、総合的な学習・国際 理解・ボランティア教育に協力	・要請に応じて学校や団体に講師を派遣(岡山 ESD 助成) 国際協力、国際交流、国際理解、開発などの実践的学習の協力を行 う。(小・中・高等学校・大学等) 実績: 12 回	4 月 └ 3 月	日本
	・出版／調査研究／学会発表	・学術論文・大学紀要(10)、学会発表(1) ・HGカンボジア活動現地調査(9月)	4 月 └ 3 月	日本 カンボジア

(2) その他の事業

定款の事業名	概要	事業内容	実施日	実施場所
バザーその他 物品販売事業	チャリティーバザーの実施やグッズ 販売・パネル展示	Tシャツ、キャップ、本などの販売やパネル展示を通して活動支援金を広く 集める。これに並行して、活動内容の広報を行うとともに、国内での 活動支援者層の拡大を図る。各地区で開催されるイベントにも参加。	随時	日本

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン／アンコールウォーキング
分類	スポーツ事業支援、組織化支援
協働団体	カンボジアオリンピック委員会(NOCC)、カンボジア陸上連盟(KAAF)

活動概要

大会趣旨:

- ・世界に向かって「非人道的な対人地雷の使用禁止」を訴える。
- ・大会エントリー費用は義手義足支援と、地雷被災者の社会復帰・自立を支援するとともに、青少年エイズ予防支援活動等に使用。
- ・健常者だけでなく、障がい者も、共に走ることを通じて、勇気と希望を与える。
- ・公認及び協力ツアーの旅行代金の一部とその他寄付をカンボジアのスポーツ振興に役立てる。
- ・カンボジアに対する世界各国からの支援に対し、感謝と元気なカンボジアを訴求する。



テーマ: 「Building a better future – Aid for children and disabled in Cambodia」

主 催: カンボジア陸上競技連盟(KAAF)、カンボジアオリンピック委員会(NOCC)

主 管: カンボジア陸上競技連盟(KAAF)

運 営: アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会

特別運営協力: <NPO>ハート・オブ・ゴールド

後 援: カンボジア政府、独立行政法人国際協力機構(JICA)、産経新聞、サンケイスポーツ他

協 賛: (株)コニシ、CAMBREW LTD.、Foreign Trade Bank of Cambodia、Untited Pharma(Cambodia)、Latels Co., Ltd

協 力: (株)アシックス、(株)かねふく、ナカシマプロペラ(株)、両備グループ、(株)おもちゃ王国、(株)ベネッセホールディングス、(株)ライツ、
(株)JTB 中国四国岡山支店、鼓粋若衆板橋轟太鼓、Asia Life Magazine、Bridge Marketing Ltd.、
ロイヤルアンコール国際病院、アンコール小児病院、Sokha Angkor Hotel、Hero King Co.,Ltd、Cogetel Limited

開催日時: 2012 年 12 月 2 日(日) 午前 6 時 30 分スタート

種 目: ハーフマラソン 21km(男女/車椅子男女)、ロードレース 10km
(男女/義足男女/義手男女)、ファン・ラン3km(オープン)

コース: アンコール遺跡周回特設コース(AIMS 公認)

プレイベント: ・アンコールウォーキング(11/30):

運営: HG、5・10km ウォーク、子ども達との交流

・前夜祭(12/1): 運営: 観光省、HG、CE

エントリー: オンラインエントリー(GAA 委託)、日本 HG 代行登録、現地登録 P.M.Green、現地登録 KAAF

参加者: 6,241 人 71 の国と地域 ※参加者、参加国ともに過去最高。(プレイベント含めると 6,428 人)

(カンボジア、アフガニスタン、ブルネイ、中国、インドネシア、インド、イスラエル、日本、キルギス、韓国、クウェート、マレーシア、シンガポール、モンゴル、ミャンマー、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、トルクメニスタン、台湾、トルコ、ベトナム、香港、オーストラリア、ニュージーランド、チェコ、オーストリア、ドイツ、アゼルバイジャン、ベルギー、ペラルーシ、ボスニアヘルツェゴビナ、デンマーク、スペイン、フィンランド、フランス、イギリス、アイルランド、ギリシャ、ノルウェー、ハンガリー、イタリア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、オランダ、ポーランド、ルーマニア、モナコ、ロシア、スロベニア、スイス、スロバキア、スウェーデン、アルゼンチン、ブラジル、カナダ、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、ジャマイカ、ルーマニア、ペルー、アメリカ、ケニア、ベネズエラ、エチオピア、モザンビーク、ナイジェリア、南アフリカ)

チャリティ: US\$19,400(カンボジア赤十字、カンボジア・トラスト、ハンディキャップ・インターナショナル、カンボジア障がい者陸連、HG)

US\$294,417(第 1 回大会(1996)から第 17 回大会(2012)までの合計)

特記事項: 参加者増加によるスタート時の安全確保に懸念があったが事前ワークショップの実施等により解決できた。前夜祭、最終登録確認などの事前準備も含め、全般的に、カンボジア人による運営が、かなり進んだ。カンボジア国内でのスポンサー獲得が増加した。エントリー数のコントロールにおいて安全を第一に行っていくことが課題である。今大会の有森賞(かすみがうらマラソンへの招待)は、ハーフ男子3位 Ma Viro と義足10km女子1位 Srey Uouchngea。

支援・協力団体: 柏崎マラソン、篠山ABCマラソン、高槻シティマラソン、吹田中ノ島チャリティラン、かすみがうらマラソン



事業名	日本語教育事業＜HGむつみ日本語教室＞
分 類	人材育成
協力団体	1) チェイ小学校 2) 協力小・中学校 3) 協力企業
活動理由 カンボジアの8割を占める農民は非常に貧しく、そのため、子どもを手放さざるを得ない家庭が多くあった。子ども達が成長しても就職は困難を極めており、もし、日本語が話せたならば、ホテル、レストラン、ガイドと仕事が見つかる可能性は高く、自立のために現地の多くの人々から日本語教育支援の強い要請を受けた。HG は日本語教育のための派遣教員として、2000 年 9 月から松尾睦先生をシェムリアップに派遣した。現地調査の結果、シェムリアップの最も貧しい地区の一つであるチェイ小学校校内において、2001 年 6 月より無料の日本語教育を始めた。2002 年には、チェイ小学校校内に独立した日本語教室を新築して、現在では4クラスが毎日 1 時間ずつ日本語を学べるようになった。日本語教育には高等教育という理由で、助成金がほとんどなく、下記の団体の寄付で活動できている。	
活動概要 1. 人数:「ひまわり組」(5名)「つばき組」(7名)「ばら組」(22名)「すみれ組」(36名) 計70名 2. 時間:月曜日～金曜日 午前 7 時～10時、午後 12時～3 時 3. 内容:ひまわり組(日本語検定 1 級・2 級目標) つばき組(検定 3 級目標) <u>日本の学校との交流(12年目)</u> 日本の学校からの支援物資(手作り日本語教材、手作り遊び、手作り絵本、手作りかばん、文房具等)を送ってもらい、日本語教室は日本からの心のこもった教材や掲示物で飾られており、その教材を使って授業が進められている。2008 年より岡山学芸館高等学校の高校生が、2012 年から岡山学芸館清秀中学校の中学生が研修旅行として、シェムリアップで数日滞在して、HG むつみ日本語教室や学芸館高校留学生の家庭訪問等をして研修の機会を得ている。現地での子供同士の交流や地域の方々との交流も大変温かい雰囲気です。自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じているいろいろなことを素直に受け入れ大変有意義な交流になっている。 <u>現地訪問・物資支援</u> 6月 19日:高野山総本山金剛峰寺と南真会の17名の皆様が来訪、交流。仏教における合掌の意味や「蓮の花は仏教の花」について、座禅の呼吸法等についてのとても素晴らしい法話を聴くことが出来た。 9月 14日:岡山大学生ツアー25名と先生2名が教室訪問。 12月14日:岡山学芸館高校生徒20名、学芸館清秀中学校生徒18名、引率者7名の計45名が教室訪問、交流。授業参観後、全員によるダンスで盛り上がる。その後4つのグループに分かれ、風揚げ作り、折り紙、シャボン玉作り、ミサンガ作りに挑戦し有意義な交流となった。*上記訪問者から、支援物資の多数寄贈を頂いた。 ① ゲェ・チョンパーは、岡山県の「国際貢献ローカル トウ ローカル」の研修の成果を生かし、毎日午前、午後とも HG 睦日本語教室で日本語の指導を精力的に行なっている。 ② テン・ワンニダーは高校3年生に通いながら、日本語能力試験 N1 を目指し毎日日本語の勉強も頑張っている。 ③ チュート・スライノッチは留学中に日本語能力試験 N3に合格した。外国人による日本語弁論大会にも出場し、「ボランティアスピリット」という主題でスピーチし、優秀賞に輝いた。高校卒業に向けて頑張っている。 ④ 姫路東ロータリークラブより、名作世界童話ファンタジー60冊と色鉛筆50セットが寄贈され、図書コーナーに保管し、読み聴かせをしたり、読書をたのしんでいる。 ⑤ 他にも企業、個人支援者の皆様より、靴、制服、文具、日用品などの支援を多数受けた。	
次期実施計画 毎年の岡山学芸館高校への留学は、2012年度はチュート・スライノッチ(6期生)が選ばれ、ハート・ペアレント(留学里親)の支援のもとに充実した留学生活を送ることができた。2013年度は、初めての男子、ラエム・セラー(7期生)が決定。彼の留学里親も募集中。今年、岡山学芸館外国語学校への留学生として、バン・サオピアが決定。	
支援・協力団体 コニシ(株)、留学里親、岡山学芸館高校・清秀中学校、順天中・高等学校、(株)タダノ、倉敷平成ライオンズクラブ、姫路東ロータリークラブ、個人支援者、岡山市立福島小学校、第三藤田小学校、政田小学校、平福小学校、野谷小学校	

事業名	ハート・ペアレント事業<ニュー・チャイルド・ケア・センター(NCCC)>
分類	青少年育成(自立支援)
NCCCの意義と意味: 孤児、あるいは孤児に準ずる子供(両親、親戚が養育できない状態におちいった子供)が、安心して生活できる環境の下で、教育を受け自立できるよう物心両面から支援し良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。 居住地: シェムリアップ州プーク郡チェイ村、 生活: 道徳、礼儀、健康管理(アンコール小児病院の協力のもと年2回の健康診断の実施)、良好な環境の保持(清掃・整理整頓)などに配慮した生活教育を行っている。年長者は年少者の面倒をみたり、家事の手伝いを積極的にしてくれる。現地スタッフ3名で子どもたちの世話をしている。また9月より日本国際協力財団の支援により、日本人専門家が現地に派遣されハード部門と共に、ソフト部門であるスタッフの能力向上のための研修、近隣の村との連携や施設の体制の充実が図れることとなった。 支援の里子: 2012年度、1名退所 14名 校外教育 ・日本語教育: 月曜日から金曜日までHG睦日本語教室で、10人の子供達が他の子どもと一緒にレベルごとに日本語を学習している。 指導者: 桧尾睦、ゲェ・チョンパー ・英語教育: NCCC内で、月曜日から金曜日まで一日1時間、初級・中級に分かれ学習している指導者: コール・ソヴィレア ・アプサラダンス: 週に3時間、継続してアプサラダンス(クメール伝統舞踊)を習っている。 ・絵画教室: 「小さな美術スクール」の主宰者・笠原知子さんのご協力により、隔週の土曜日月2回、絵画教室を実施している。子どもたちの絵はTシャツのデザインになったり、絵画展などでの販売されるようになった。 門塀の完成、スタッフ宿舎・納屋の改修工事、植樹: ・門と塀の完成、スタッフ宿舎の改修工事により、防犯上子どもたちが安心して暮らせるようになった。 ・これまで木材などが置かれていた納屋も改修工事が行われ大部屋として子どもたちが使えるようになった。現在英語の授業はここで行われている。 ・11月にツアーの方々と果樹の植樹を行った。数年後食べられることを子どもたちは楽しみに毎日水をあげている。 次年度の実施計画 ・子どもたちの校外教育の継続実施。 ・食堂改修工事、畑整備、女子棟下増築工事を行いたいと思っている。 ・日本に留学(日本語の勉強と将来美容師になる夢の実現のため) ・男子入居者が少ないことを考え若干名の子どもを受け入れる。 (候補者決定済み) ・スタッフ研修や NCCC 要覧などの資料作成。 ・地域とのネットワーク作り 支援・協力団体 日本国際協力財団、高野山真言宗、高野山大学同窓会、高野山真言宗南真会、ハート・ペアレント、現地訪問寄付者、個人支援者、大光電機(株)、バレンタインチャリティーデナー実行委員会、岡山せとうちライオンズクラブ	
   	

事業名	3.11 子ども animo プロジェクト
分類	復興支援事業
支援団体	被災幼小中高等学校、仮設住宅入居者（宮城県・福島県）
活動理由 2011.3.11 に起った未曾有の東日本大震災に対して、HG石巻クラブと、HG福島クラブと連携して継続的支援を実施。復興の最も大きな柱となるのは「教育」である。昔からいつの時代も、日本の発展を支えたのは「教育」の力であった。 HGが行ってきたカンボジアでの活動も、人材育成、教育である。明日を担う子ども達と、そしてそれを支える現場の先生たちが元気になれるよう、1日も早い復興を願いながら「3.11 子ども animo プロジェクト」として本年も支援活動を進めた。 本年は、全国からの支援が減少している中、復興にはほど遠い状態である宮城県の 2 校の仮設学校と話し合い、現地が希望する支援を進めた。福島県も必要物資や、避難者が元気になれる支援として、福島クラブの要請により支援活動をした。	
活動概要 宮城県（石巻市立渡波小学校、東松島市立野蒜小学校） ① 毎日の授業は、仮設学校で始まっているが、校外学習などPTAが負担してきた校外学習などが、親たちも被害を受けている中、十分な学習ができにくくなっている。そこで、学校と話し合っ、子どもたちにとって楽しい自然教室、全校遠足、宿泊学習などを支援。 ② また、全ての写真が無くなった子供たちが多い中、6年間の思い出を蘇ることが出来る小学校の卒業アルバムを支援した。子ども達からは、とてもうれしかったとの感想がたくさん寄せられた。 ③ 鼓笛隊が優秀で近くの避難所などにも、演奏して喜ばれている渡波小学校からは、鼓笛隊のユニフォームの要請があり支援した。 福島県（福島県被災学校、避難者） ① まだ物資が充分でない学校、避難所に必要物資を支援 飯館小学校・飯館村仮設幼稚園・仮設小学校・仮設中学校・飯館村避難者・福島県警津波被災者捜索隊） ② 富岡高校（バトミントン部支援） ③ ロンドンオリンピック競泳出場支援（加藤和） ④ 被災者（米倉良平君）をアンコールワット国際ハーフマラソンに招待 ⑤ 波江町避難者支援 交流事業として有森代表他数名が現地支援学校を訪問（3月5日～8日） 有森裕子先生の体育出前授業、卒業アルバム贈呈（野蒜小学校） ブラスバンド引き継ぎ式参加（ユニフォーム贈呈式）交流（渡波小学校）	
次年度の実施計画 ・ HG石巻クラブ、HG福島クラブと協力して復興支援継続 ・ 被災学校である野蒜小学校、渡波小学校の復興支援の継続 ・ 福島県被災学校、仮設住宅避難民への支援 ・ 太陽光街灯の設置（小・中学校・公民館など計35基）	
支援・協力団体 日本警察・消防スポーツ連盟、淀川国際ハーフマラソン、(株)翌檜、バレンタインチャリティーデナー実行委員会、絆の会（あにも）、個人支援者、就実中・高等学校、船橋市立海神小学校、岡山市立石井中学校	



事業名	カンボジア王国 小学校体育科教育支援事業 (JICA 草の根技術協力事業)
分類	教育支援、組織化支援
支援団体	カンボジア教育省、地方教育局、モデル小学校、モデル教員養成校

活動理由

カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材教材等、教育システムが根底から破壊された。パリ和平協定以降、教育インフラの再建が進められているが、人間開発の根幹を担う情操教育は殆ど着手されていなかった。また、当該国では研究機関が未開発であるにも関わらず、未だ教育施設整備に偏った教育開発に留まっていた。さらに、国家の未来を担う子ども達の健康・健全育成を保証する上で最も重要な体育科は、週 1 回、朝礼時に行われる簡易運動のみに留まっていた。そこで、当会は教育省、JICA、筑波大学との連携を図り、体育科授業の全国的な普及に向けて、2006 年から 2009 年にかけて、指導要領の新訂、指導書案の作成を実施、2009 年から 2012 年にかけて、5 州 10 小学校、5 教員養成校を拠点校として、基本的な普及基盤を確立してきた。

今後はさらに教育省担当官の増員及び育成を図り、地方での体育科教育普及、指導書の正式な認定及び配付等が求められており、教育省が独自に事業成果を継続できる体制作りが必要である。

本年度の活動概要

- JICA-筑波大学との連携事業によって以下の支援内容を達成した。(2012 年 4 月～6 月)*2012 年 6 月をもって 3 年間に亘る本事業は終了
- ① 各地域(バットンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州)の拠点校を巡回し、モニタリング・評価を実施、6 小学校及び 2 教員養成校を研究指定校として認定。
- ② 教育省大臣・次官を含めた関係者に事業成果を報告。
- ③ 対象校で体力測定を実施し、測定結果の回収と集計方法の指導等を実施。
- JICA から派遣されていた青年海外協力隊員の渡邊氏によって、教育省体育科教育担当官育成の為の講習会を計 4 回開催し、特に教育省の体育科教育を推進する副担当官の育成に注力した。(2012 年 6 月～12 月)
- カンボジア・キッズ・サッカー大会<第 1 回ハート・オブ・ゴールドカップ 2013> 地方 5 州とプノンペンから 100 名の子ども達が参加、日本の小学生を含む支援者からの寄付にてボールやユニフォームも贈呈
- 教育省の小学校体育科教育担当官と共に、指導書の改訂を継続実施。
- 次年度開始予定事業に向けて、今までの事業対象の 5 州(バットンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州)を再度モニタリングし、対象の小学校・教員養成校の現状の把握・指標の設定基準等を確認した。(2013 年 1 月～3 月)



6 小学校、2 教員養成校が研究指定校に認定されました。



青年海外協力隊員の渡邊さんによるワークショップ風景。

本年度は JICA との草の根技術協力事業の最終年度にあたり、6 月をもって事業が終了した。その後、成果の 1 つである教育省の担当官の質を継続させるために、当会に派遣されていた青年海外協力隊員によって、計 4 回の講習会を実施した。その間、終了した本事業の後継事業を JICA の草の根技術協力事業にて申請し、2013 年 4 月から 2016 年 9 月までの計画の次事業が採択が決定した。決定後、先行事業で拠点校としていた小学校・教員養成校を再度訪問することにより、各拠点校の意識を向上させると共に、現状把握、指標の収集方法等の確認を行った

次年度の実施計画

- JICA との連携事業によって、2013 年 4 月から 2016 年 9 月までの事業の中で、「カンボジアの小学校体育科教育において、教育省学校体育スポーツ局が自立的に普及できる体制が確立される。」ことを目標とする以下の成果達成に向けた活動を開始する。なお、対象州は今までの 5 州(バットンバン州、シェムリアップ州、シアヌークビル州、クラチェ州、スヴァイリエン州)に加え、新たな対象州として、10 州(バンテアイミンチェイ州、コンポンチュナン州、プレアビヒア州、コンポントム州、カンポット州、コッコン州、ラタナキリ州、スタウントレン州、プレイヴェン州、タケオ州)を加える。
- ① NT が、対象 15 州に継続的に体育科教育指導を普及できるための専門家として育成される。
- ② 新規導入州を含めた 15 州において NT、RT が連携して体育科教育が普及できる地方の体制が確立される。
- ③ 教育省が体育科教育の重要性を正に理解し、持続的な体育科教育の普及方法が導き出される。
- 指導書の改訂を完了させ、教材認定委員会(EMAB)による認定審査にかける。その後、EMAB によって公式認定された指導書を印刷し、主に JICA 草の根技術協力事業の対象となっている小学校・教員養成校に配付する。
- 小学校体育科の授業を発揮できる場としての運動会を拠点校で開催できるよう、専門家派遣を実施する。

支援・協力団体

カンボジア教育省、独立行政法人 国際協力機構/JICA、筑波大学、青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、岡山県庁、一般財団法人みんなでつくる財団岡山、岡山南ロータリークラブ、大光電機(株)、ハート・オブ・ゴールド チャリティディナー実行委員会、泰阜村教育委員会、たまの親子チャリティーマラソンInおもちゃ王国、個人支援者、御津中学校PTA、岡山西南ロータリークラブ、函南東サッカースポーツ少年団、篠山ABCマラソン、サッカー大会支援者、

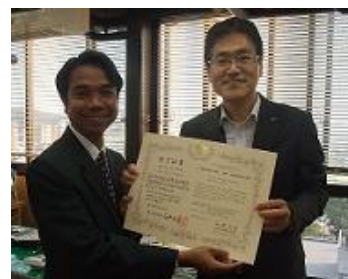
事業名	岡山県海外技術研修員事業-国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業 小学校体育研修員招聘
分類	スポーツ事業支援、人材育成
協力団体	岡山県、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山県国際交流協会 岡山市内小中学校、岡山大学、岡山県体育協会、ファジアーノ岡山

活動目的 ※当会の事業提案申請に応じて、岡山県が実施した事業である。

招聘者であるケオ・ソチェトラは、東南アジア事務所在籍で、JICA草の根技術協力事業/フェーズI及びフェーズIIを通じて、プロジェクト・リーダーとして、カンボジア体育の基盤作り及びカンボジア教育省担当官の育成支援など体育の普及の一翼を担ってきた。これまで本助成事業を通じて、岡山で研修を受けたカンボジア人行政官が当会のプロジェクトの一員として、小学校の教育現場で活躍しているが、制度においても課題が多く残されている。全国で約7,000校ある小学校のうち同国が定めた指導要領に沿って体育を実施できる学校はごく僅かであり、今後長期的に体育の普及に取り組んでいく必要がある。同国教育省内でも体育の重要性が認識されており、今後も継続して体育発展に力を注ぐ計画がある。これまで体育に関する知識や技術を習得してきたが、未だ実際の教育現場での指導技術の向上に向けた取り組みや体育の教員養成に関する経験が不足している状態で、本事業にて、本部のある岡山の保健体育について行政側の関わり方を学ぶとともに、小中学校の教育現場で実際の体育指導、体育施設・教具、または位置づけや意義などを学び、今後のカンボジア教育省の行政官の人材育成及び小学校の体育科教育の発展に還元することを目的とする。

活動概要

研修日程：【7月】 /2 来岡、 /3-4 オリエンテーション、表敬訪問、
/5-26 日本語研修、 /24・27 岡山県研修会参加、
【8月】 /2 岡山県体育協会にて研修、
/3 県教育庁保健体育課、県スポーツ振興課にて研修、
/7-8・10・16 県研修会参加、 /9・17・20・22・24・27 市研修会参加、
/18-19 国体中国ブロック見学、 /25 岡山大学協働イベント参加、
/29 ファジアーノ岡山事務所訪問、/30 県スポーツ振興課競技体験
【9月】 /2 研修員ふれあい講座にて講演、 /4 表敬訪問、
/5 岡山大学保健体育講座にて研修、
/9 第2回たまのチャリティ親子マラソン参加、
/10-21 岡山市立旭東中学校にて研修、
/16 吹田中の島チャリティラン参加、
/24-28 岡山市立福島小学校にて研修、/25 市研修会参加
【10月】 /2-5 岡山市立福島小学校にて研修、 /9-11 岡山大学保健体育講座にて研修、
/13-14 岐阜国体見学、 /15-26 岡山市立第三藤田小学校、 /30 帰国



成果 8月の研修は、岡山県、市の各保健体育課主催による夏季休業期間を利用した教員向けの研修に参加した。厳しい日程ではあったが、研修員は熱心に取り組み、また、各課の研修指導員とのコミュニケーションが日本語で行えることから、質問なども積極的にでき、非常に有益な時間を持つことができた。技術の習得のほか、研修会を実施するためのノウハウについても大変参考になったようで、帰国後にワークショップや研究授業にすぐに取り入れるようである。

9月からの学校での実地研修では、教員の授業の組み立て方などをみることができた。学校内での児童・生徒の生活にも触れ、カンボジアの子どもとの違いなども理解できた。

本研修員の実地での直接的な知識、技術習得は、今後の体育教育振興を牽引していく大きな力となることが期待できる。

事業名	国際理解教育(サービスラーニング)
分類	青少年育成(研修・啓発)
協力団体	小学校・中学校・高等学校・大学・任意団体
活動概要 学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。子ども達が、世界の現状(貧困・環境・平和など)に目を向け、グローバルな視点から、国際理解(異文化理解)を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演、IT 機器による交流(メール、スカイプなどを利用)、ビデオ、文通、カンボジアの留学生・研修生などの話を聞く、現地を訪問するなど、できる限りの手立てを利用。そして交流した中で、異文化理解、持続可能な開発などについて考え、自分の生活を見直し、自分の可能性と力に目覚め、進んで社会のために活動できる人材を育成する。 1)設備・物資支援 (日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材に使用) * 体育教育認定校、カンボジアキッズサッカー大会、他にボールや体操服などを贈呈 * 李音楽グループの協力により、ブランコと滑り台が設置され贈呈された。 * HG睦日本語教室とNCCC へは学校から教材・文房具・歯ブラシ・カレンダー・石鹸など贈呈 * ツアーの場合は、事前に必要なものを聞き、現地に支援物資を持ち込んだ。 2)交流支援 * 岡山大学 27 名、岡山学芸館高校・岡山清秀中学校 45 名、が訪問 * HGスタディーツアー60 名、李音楽グループ 14 名、富山YMCAグループ 8 名の訪問・交流 3)「3.11 子ども animo プロジェクト」として、東日本大震災被災学校の復興支援活動 大きな被害を受けた宮城県の東松島市立野蒜小学校と石巻市立渡波小学校の学校復興を支援。本年は校外学習支援として、全校遠足、自然教室、卒業アルバム、鼓笛隊制服支援などを実施 3 月 5 日～8 日支援学校訪問。野蒜小では有森先生の体育授業。渡波小では鼓笛隊交代式に参加。学校新聞やお礼の手紙などを受け取りました。支援をととても喜んでもらっていたことを実感しました。 4)授業協力(サービスラーニング) HGスタッフ、カンボジアからの留学生、研修生などが、小・中学校で出前授業を実施(年間 20 回実施)。自分たちでできる国際協力について相談に乗りながら学校に協力	
成果 年間を通じて、途上国にかかわることで、それぞれが、貧困、環境、食料、人権、平和などが、どれもつながりをもって関係している事を知り、自分たちで出来る事があることを実感した。 また、自分たちの環境、教育、家庭、地域などに目を向け、持続可能な社会を、協力して作ることに向かう。そして、自分たちが支援した物資などが、現地に渡され喜ばれたことを確認でき今後もできる支援活に、取り組む動機づけとなった。高校生には将来の進むべき道にも影響を及ぼしたようだ。自分の身の回りから変えていく事に気が付き、友人や家族と共に活動して社会を変えていく喜びを感じた。児童たちからのプレゼントを手作りの袋に入れて渡す。	
参加学校 など ①岡山市立平福小学校 ②岡山市立福島小学校 ③岡山市立西大寺小学校 ④岡山市立第 3 藤田小学校 ⑤岡山市立野谷小学校 ⑥岡山市立政田小学校 ⑦岡山市立石井中学校 ⑧岡山市立御津中学校 ⑨岡山清秀中学校 ⑩倉敷市立精思高校 ⑪岡山学芸館高校 ⑫東京都立千早高校 ⑬岡山大学 ⑭カンボジアチェイ小学校内HGむつみ日本語教室 ⑮カンボジアチャイルドケアセンター 他	
今後の計画 2012年度もカンボジアから岡山学芸館高校に留学予定。カンボジアからの招へい者も、できる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組むESD「持続可能な開発のための教育」に協力して、実践を通して地球規模で未来を考え、社会性を育てる。	
助成・協力団体 岡山 ESD 協議会、個人支援者、協力学校、李広宏音楽グループ、大光電機㈱	

